

『万葉集』

万葉歌碑について調べて、目黒の歴史を振り返ろう

8/4 (日)



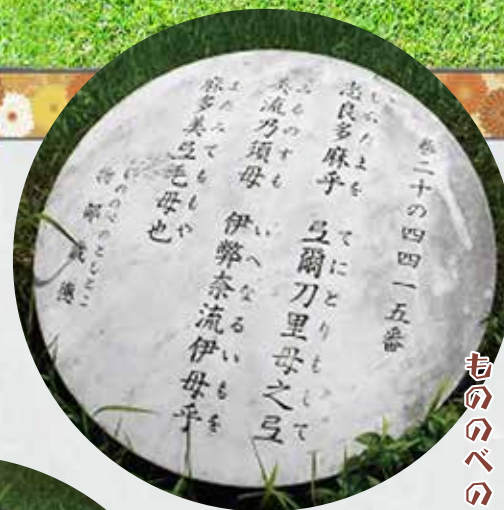
めぐろっちゃん

【目黒区の万葉歌碑】

めぐろ区民キャンパス北西の角に『万葉集』の歌碑があり、円形の石に三首が刻まれています。いずれも防人とその妻によって詠まれた歌です。その昔、目黒区の周辺は東国の荏原郡とよばれていて、防人として遠く九州に派遣される兵士がいました。故郷に残した妻を気遣う歌、生還の困難な夫を案ずる歌など、人間味あふれる夫婦の愛情が伝わってきます。歌は万葉仮名で書かれており、この地域の人々の思いを今日に伝える貴重な記録になっています。

巻二十の四四一五番

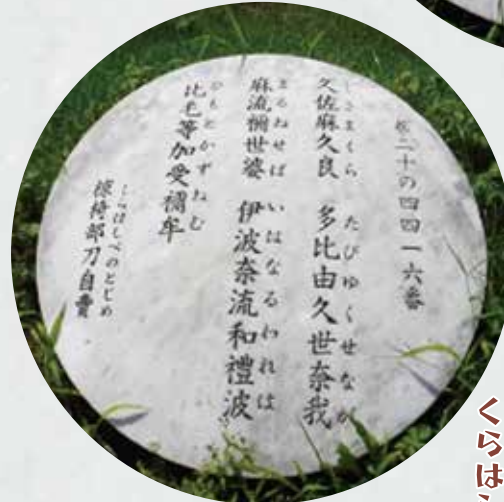
しりたまを てにとりもして みるのすも
いへなるいもを またみてももや



巻二十の四四一五番

巻二十の四四一六番

くさまくら たびゆくせなが まるねせば
いはなるわれは ひもとかずねむ
くらはしへのとごめ



巻二十の四四一六番

巻二十の四四一八番

わがかどの かたやまつばき まことなれ
わがてふれなな つちにおちもかも
ものへのひるたり



▲緑生い茂る「めぐろ区民キャンパス」に設置された石碑。万葉歌碑の説明書きの石碑もあります。

【防人とは？】

飛鳥時代から平安時代に、九州の守備にあたった兵士。諸国（全国）から徴兵され、3年で交代となったそうです。

その2：設置の経緯 【歌を後世に伝えたい】

万葉集の歌は1300年も昔、私たちの先祖が体験したことを細やかに詠み上げた歌です。それを後世に伝えることは大切なことと考え、平成14年に「歴史と文化の散歩道」に隣接した都立大学跡地に石碑が設置されました。

櫻井編集員が現代記に挑戦!!

- 四四一五：防人として妻と離れて暮らしている。早く戻って一緒に過ごしたい。
- 四四一六：遠くにいる夫は夜着*にも着替えず生活している。私も家庭を守るために頑張っている。
- 四四一八：故郷の地に残っている妻は、旅先から帰ってくるまで元気であるか心配だ。

その1：漢字の意味 【歌は漢字で書かれていた】

漢字そのものには意味がなく、音だけを表すために使われた漢字の“当て字”のこと。当時は母音が8種類も存在した上代特殊仮名遣い、「万葉集」によく登場していたので「万葉仮名」と呼ばれるようになったという説もあるそうです。

*寝るときに上に掛ける夜具。かいまきとよばれる着物の形をした大形の掛け布団。



【用語解説】

- 白玉→尊いもの、かけがえのない人。ここでは妻を指す。
- 草枕→「旅」にかかる枕詞。旅の野宿で草を結んで作った枕のこと。大変だった当時の旅の様子がうかがえる。
- 椿→ 悲しみ、儂い様。美しい花をつけるツバキを例示することで、妻に対する深い思いを表わしている。

【万葉集とは？】

日本に現在残っている最も古い歌集です。7世紀後半から8世紀後半にかけて編纂され、作者は天皇や皇族から、名もない兵士や農民まで幅広い層にわたります。



●歌碑のことだけではなく、万葉仮名や季語などの細かい質問にも丁寧に答えて下さって、とても勉強になりました。紹介して下さいました本を通して、万葉集への理解をさらに深めたいと思います。(真之) ●目黒区に万葉集があることをはじめて知った。目黒区の万葉集についていろいろ知ることができた。(文昊) ●目黒区が万葉集にゆかりがあると知って、とても意外だった。(文昭) ●今日は万葉集について発表している時に写真を撮りました。楽しかったので、また取材に参加したいです。(洋平) ●遅れて行ったので、歌碑しか見ることができませんでした。歌碑をバツと見ても、説明がなきゃ分かんないもんなんです。でも、参加して良かったと思います。(希義)